

年報第1・2合併号

さわぐるみ

沢胡桃

2002・2003年度(2002年5月~2003年11月)活動報告



グループ沢胡桃の発足にあたり

代表 佐藤広司

冒頭から私事で恐縮だが、私が沢登りを始めてから20年以上が経ってしまった。この間、色々な人にお世話になり、現在の私がある。しかし、山仲間だった後輩の遭難死を契機に山岳会を創立した当時の人々が、ついに私の周りにいなくなってしまった。その後、会の名称は三度変わったが、幸いなことにいつも私の周りには信頼できる先輩や仲間がいた。昭和58年に「逍遙」という名を提案したのは私だが、その時には古臭いなどと言う先輩もいたが、「沢から沢へ、沢から頂へと気ままに歩く」というコンセプトにピッタリということで全員の一致を見た。

その後、山に対する考え方や意見の違いから主力メンバーが離れてしまったことも1度ではない。それでも、その度に新たに仲間が入り、新たな信頼関係が築かれている。今回、諸般の事情で「グループ沢胡桃」が発足した。そして、ついに信頼できる先輩が私の周りに一人もいなくなってしまったのが、大変残念である。反面、現役員全員が私に同調してくれたのが、何よりもありがたかった。また、「グループ沢胡桃」という会名を、私も気に入っているし(今回は私の発案ではないが)、全員に了承していただいた。

グループ沢胡桃の発足にあたり、一番大切なことは、全員が一致して初心に帰り、より安全にしかも楽しく沢から沢へ、沢から頂へと活動をしていくことだと私は思う。そして、今年の旧会月報「逍遙」1月号にも書いたが、敢えてもう一度言わせていただきたいことがある。

それは、まず、山岳会は会員同志のギブアンドテイクで成り立っているということである。経験や技量の有る者は新人や経験の浅い者を教えていただきたい。そして、新人や経験の浅い者は、一日も早く一人前となって、どこの沢にでも行けるようになり、後から入ってくる新人を指導していただきたい。また、会の運営は経験に関係なく、全員で分担し、特定の者のみに負担を強くないようお願いしたい。

次に、安全登山に心掛けていただきたいということである。「敵を知り、己を知れば百戦危うからず」と言う諺があるように、十分な下調べをし、自らのパーティの体力や技量を十分把握し、打合せを入念に行うことで、危険はかなり回避できるはずだ。

三つ目に、ついに私が最年長となり、若い人には口うるさい代表だと思われるかもしれないが、こと安全に関しては、色々言わせていただくということである。自分の考えを人に押しつける気は毛頭無いし、会員の声には素直に耳を傾けているつもりだが、口うるさいと多くの会員が感じるようになったら、言っていただきたい。その時は、代表を降りるつもりである。

以上、グループ沢胡桃の発足にあたり、色々と言わせていただいた。当会最初の月報ができる頃は梅雨が明けているだろうが、今年は私も積極的に山行に行くつもりである。リーダーの皆さんに迷惑を掛けたくないよう、さらに技量を磨くつもりである。

目次

東北の沢	1
和賀・和賀川赤沢～本流(下降)～大鷲倉沢	2
和賀・堀内沢八瀧沢	5
和賀・堀内沢辰巳又沢	8
栗駒・産女川	11
焼石・尿前沢フロ沢	14
焼石・尿前沢本沢～胆沢川スギヤチ沢(下降)	17
焼石・夏油川枯松沢～尿前沢本沢～夏油川(下降)	20
焼石・胆沢川小岩沢～南本内川(下降)	26
虎毛・役内川潰沢三滝沢	29
虎毛・皆瀬川春川ダイレクトクロアール	31
虎毛・皆瀬川虎毛沢左俣～春川西ノ俣沢(下降)	34
虎毛・保呂内沢西ノ股沢～本流(下降)	38
二口・名取川二口鳴虫沢	42
二口・二口沢糸滝沢	44
二口・大行沢～カケス沢右俣	46
朝日・三面川末沢川	49
朝日・根子川入りソウカ沢(中止・日暮沢小屋停滞)	54
朝日・根子川入りソウカ沢(中退)～ワサビ沢	57
朝日・三面川岩井俣川畑沢	60
蔵王・北川小屋の沢	64
南会津・安越又川道行沢～黒谷川上梯子沢(下降)～東実沢～袖川右岸支流(下降)～御神楽沢	67
南会津・桧枝岐川黒桧沢～袖沢ミチギノ沢(下降)～御神楽沢	70
南会津・桧枝岐川上ノ沢～大津岐川大沢岐沢(下降)	74
関東周辺の沢	77
上信越・清津川サゴイ沢	78
上信越・魚野川白砂川八間沢	80
二王子・内の倉沢七滝沢	82
谷川・谷川本谷～赤谷川源流部	86
谷川・赤谷川笹穴沢	89
谷川・万太郎谷井戸小屋沢	91
谷川・仙ノ倉谷西ゼン	94
谷川・湯檜曾川大倉沢	96

那須・阿武隈川本谷	99
那須・阿武隈川一里滝沢～ヨロイ沢右俣下降～左俣	101
那須・阿武隈川南沢	104
南会津・湯西川栗山沢～フリウギ沢（下降）	106
紀伊半島の沢	109
台高・又口川三ツ俣谷～東ノ川本流	110
台高・銚子川不動谷～東ノ川白崩谷	114
台高・備後川大谷	119
台高・宮川大和谷焼山谷・ロクロ谷	122
台高・宮川大和谷本谷川上谷	126
その他の山域の沢	129
北アルプス・黒部川上ノ廊下	130
北アルプス・金木戸川双六谷九郎右衛門谷～黒部川赤木沢	135
奥美濃・揖斐川赤谷	140
年報 CD 目次	145
山行一覧	149
【編集後記】	153

東北の沢



和賀・和賀川赤沢～本流(下降)～大鷲倉沢

2002年10月12～14日

L 松之舎 戸ヶ崎 望月

和賀川の支流、大鷲倉沢を遡行するには、高下口登山道の和賀川渡渉点から本流を下降し大鷲倉沢の合に至る方法が一般的であろうが、我等はそうしなかった。

10/12 晴れ

夜行バスで北上駅に着いたのは予定時刻の数分前。おかげで1本早い電車に乗ることが出来た。電車には他にも登山者がいたが、ほっとゆだ駅で降りたのは我等だけだった。駅舎に温泉があるので1本早かったことだし風呂浴びてからなどと半ば本気で考えていたら、予約のタクシーが待ち構えていて思いどおりにならないのだった。

タクシーは高下の登山口の1km位手前の仮ゲート(ひもが張ってある)で降ろされた。荒れているらしい。元々この辺で降りる予定だったので幸いである。少し戻って、高下川の橋を確認し、左岸の支流というには貧弱な最初の窪から取りついて604mを目指す。

登り始めこそ快調だったが、すぐにつる状の藪に出会う。稜線はすぐそこのので多少の藪なら平気と判断し突入したのがケチの付きはじめ。山ブドウのつるに絡まれ、初日の重荷が体にこたえる。まっちゃんは、ぶどうがうまいといいながらつる藪の相手をしている。高巻のときは偉い違いだ。やっとのことで藪を抜けたと思ったら、地形が分かりにくく下降点分からない。地形図上の道は不明瞭。

適当な窪から赤沢を目指して下降する。次第に沢筋が明瞭となり、先に行くまっちゃんの奇声がこだまする。晩のおかずが充実することと、進行速度が遅くなることが決まった。

そうこうするうち赤沢左岸の林道に出た。廃道ながら踏跡は明瞭。快調に歩を進め、林道の終点から踏跡をたどって下降すると赤沢に降り立った。そこは512m 二又付近。小綺麗で穏やかでナメっぽい沢だ。

少し行くと、2～3mの小滝と8mの滝が連続する。ナメの小滝が散在し、その後も3～5mの滝が続き飽きさせない。途中茸採りの一行とすれ違う。登山道か

ら下ってきたらしい。

奥の二又を左に入り左岸の枝沢を2本見送り高度を稼ぐとほどなく稜線に乗越した。ここは841m地点、正面の急な窪を下って和賀川本流めがけて下降する。何かにつまづいてこけたところに晩のおかずが。笑いが止まらない。

本流が近づき、窪の傾斜が増して滑り易く危険なので、右の方へ逃げながら下降しつづけると、本流左岸に付けられた踏跡を合わせ本流に降り立った。ゆったり流れる大きな川、壮観の一語。ここに泊まっていけと右岸の砂地が語りかける。下流すぐのところの大鷲倉沢の様子をうかがうがテン場は近くに見つかりそうもない。リーダーのまっちゃんにおねだりして、さっきの砂地を今日の泊まり場に決定。ご機嫌な一夜であった。



10/13 晴れ

いつもより早く出発するという約束どおり7時に出発。大鷲倉沢は、小粒な滝や釜が連続し、若干の巻もあってそこそこ手応えのある面白い沢だ。地形図からは想像しにくいが幕営適地もある。しばらく進むと溪

相が変わり谷全体が明るく開ける。稜線や登山者の姿がはっきり見える。基本的にはゴーロ帯であるがときおり小綺麗な滝が迎えてくれるので飽きさせない。詰めは長い直線状の石段状。久しぶりの本格遡行で疲れはピーク。若い者にはかなわない、というはめになってしまった。とはいえ、雄大な景色に励まされ、源頭の草原を登り切って和賀岳山頂に到着。

15時、他のパーティは、もうとっくの昔に通過しただろう、なんて思いつつ無線交信してみれば目と鼻の先、というか手前に辰巳又パーティの姿が見えるではないか。そう、我ら大鷲倉パーティが一番乗りだったのだ。

他パーティの進行具合から、今日の幕営予定地である袖川沢下降は時間的に難しいと思いつつ稜線を西に進む。袖川沢を見下ろす小杉山で休息中に辰巳又パーティが追いついた。皆でいろいろ思案した結論は、辰巳又パーティは予定どおり袖川沢へ下降、大鷲倉パーティは稜線を南下し薬師岳避難小屋跡に行き、遅れているであろう八瀧沢パーティを待つというもの。携帯でタクシーを予約して出発。途中、薬師岳手前で見た日没の美しかったこと。今回の山行の白眉といって良い。

薬師岳避難小屋跡には先客がいて、数張り分のスペースは占拠されていた。というよりか、絶叫調のアカペラの世界にはお付き合いできないので、そこをあきらめて、少し下った水場付近に1張り分のスペースを見つけて今日の泊まり場とした。焚き火は出来なくてもないが、時間も遅くなりそうなので止めた。ほろ酔い気分になりかけたころ、八瀧沢パーティが到着。満足満足。

10/14 晴れ

今日は林道まで少し下ってタクシーに乗るだけ。予定どおり袖沢川出合いで辰巳又パーティを拾って集中の完成。温泉ゆぼぼで汗を流し、ゆぼぼの送迎バスで角館駅まで送ってもらった。(記：戸ヶ崎洋)



<コースタイム>

10月12日 ほととゆだ駅(7:05)～(タクシー)～仮ゲート(8:00～8:40)～稜線(10:00)～赤沢(11:40)～841m地点(14:10～14:20)～本流(14:50)

10月13日 幕場発(7:00)～奥の二又(12:50～13:30)～和賀岳(14:55～15:15)～小杉山(16:00～16:30)～薬師岳避難小屋跡(18:30)

10月14日 幕場発(8:30)～林道(9:30～10:00)～(タクシー)～温泉ゆぼぼ(11:00)

